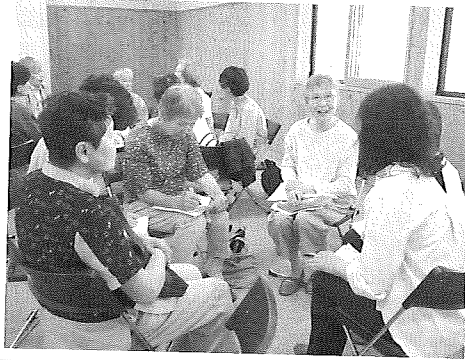


在宅ホスピスボランティア 寄り添う活動学ぶ



人生の終末期を自宅や地域で過ごせるよう患者や家族をサポートする「在宅ホスピスボランティア」の入門講座が、6

月3日、大泉町のいずみ活性化施設で開かれ、高齢者の生活支援などに取組んでいる団体や個人の約30人が参加した。

高齢者の在宅医療や介護を支援する一般社団法人だんだん会（長坂町）が、訪問看護を行うなかで、「看護師などの専門職では対応が難しい患者の精神面や生活面での支援を担う人材が必要」と、同講座を初めて企画。

2日間の講義で、同日は在宅ケア支援を行う医療法人社団パリアン（東京都）の訪問看護師・川越博美さんを講師に迎えた。

川越さんは、死が近づいた患者の心理や身体

変化などを説明し、「患者の話しを聞くことで、臨終に感じる人生の意味や死への恐れなどのスピリチュアルペインを取り除いてほしい」とボランティアの役割について話した。

死別を経験した家族への支援については、悲しみを和らげる方法やコミュニケーションをとる上で注意すべき言動などを説明し、「患者や家族が落ち着いて最期を迎えられるように支援してほしい」と語った。

また、パリアンの理念や活動内容を紹介したほか、グループに分かれて講座の感想や今後の活動に関する話し合いが行われ、「自分にもできることが分かった」、「家族への寄り添いがすごく大切だと感じた」などの意見があがった。（写真）
だんだん会では、「在

宅ホスピスボランティアを考えるきっかけをつくらうと入門講座を実施した。今後も継続していきたい」と話している。詳細は☎45・9566まで。